

第6回

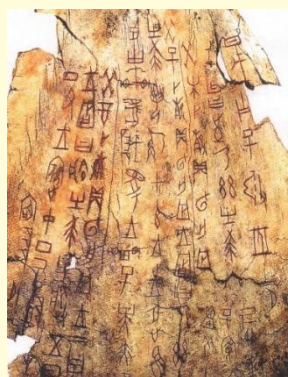
富山大学人文学部
富山循環型「人文知」研究プロジェクト公開研究交流会

「人文知」コレギウム

漢字、その深奥なる世界へのいざない

2018年3月20日(火) 15:30~17:30

富山大学人文学部1階大会議室



「甲骨文も言語である」

森賀一恵(東アジア言語文化講座・中国言語文化教授)

甲骨文の否定詞「不」「弗」と「勿」「弼」は用法が異なり、命辞において「不」「弗」は「受年」「死」「雨」のように人の意志では制御できない事例の否定に用いられるのに対し、「勿」「弼」は「往」「征」「狩」など人の意志で行うか否かを決定できる事例の否定に用いられるが、占辞では逆になる。類型論的なmodality研究の成果から知られるmodalityの普遍的特徴を踏まえた上で、漢語のmodalityや古代漢語の「勿」の用法も手がかりにして、その理由を明らかにする。



「漢文訓読研究の コペルニクスの転回」

小助川貞次(東アジア言語文化講座・日本語学教授)

漢文訓読は、中学1年から高校3年まで6年間も勉強してきた漢文文献を読解するための重要なツールの一つである。日本独自の方法と信じられている漢文訓読であるが、中国語、朝鮮語、ベトナム語にもよく似た方法があることは意外と知られていない。さらにヨーロッパに目を転じると、中世ラテン語文献の中にもヨーロッパ諸言語による類似した方法が存在する。漢文訓読に対する一般的な理解や教育方法、そしてそれを支える漢文訓読研究は、重要な転換点に来ている。

お問い合わせ: 富山大学人文学部総務課
TEL 076-445-6131 / FAX 076-445-6141

一般・学生聴講可 / 無料